



大学院

名医に学ぶセミナー 兼 TR セミナー

がん新薬開発試験：  
国立がん研究センターでの取り組み

講師：大津 敦 先生

国立研究開発法人 国立がん研究センター  
先端医療開発センター [NCC-EPOC] ・センター長

日時：2015年6月26日（金）17：30～18：30

会場：医学教育図書講義棟 4階 第4講義室

がん新薬の First-in-human (FIH) など早期開発試験は、健常人ではなくがん患者を対象として実施され、高い内科的知識と TR 研究などが要求される。当センターでは 2012 年に両キャンパスの横断的組織「早期・探索臨床研究センター」（2015 年 4 月より「先端医療開発センター」）(NCC-EPOC) を設立し活動を開始した。すでに FIH 試験は企業治験 25、医師主導治験 2 試験、第 I 相試験は両病院合わせて年間約 50 の新規試験、未承認薬医師主導治験 (IIT) もすでに 12 試験を実施している。アカデミアシーズも 11 シーズの開発に着手している。多数の製薬企業との創薬・臨床試験に関する包括契約を結び、非臨床試験段階からの共同研究や契約に基づいた企業資金による IIT も開始した。

さらに基盤研の「創薬支援戦略室」とも覚書を締結し、積極的なアカデミアシーズ開発の連携を構築している。また、ゲノム解析・創薬技術の進歩から、多数のドライバー遺伝子異常とその特異的阻害剤の開発試験を促進するため、産学連携全国がんゲノムスクリーニングコンソーシアム (SCRUM-JAPAN) も設立し、2015 年から全国約 200 施設の協力の下に活動を開始している。昨今進歩が著しい免疫療法の新薬開発に関しても、東大、京大、阪大、山口大、熊本大などを始めとした、アカデミア施設や企業との産学連携ネットワークの構築も開始している。本講演では当センターでの実例を中心に、がん新薬開発の産官学連携のありかたについて言及する。

【連絡先】：免疫識別学分野 西村 泰治 内線：5310（教授室）、5313（秘書室）  
レポート宛先：[mxnishim@kumamoto-u.ac.jp](mailto:mxnishim@kumamoto-u.ac.jp) Cc: [iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp](mailto:iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp) (医学教務)